

# ロクな死にかた

作・広田淳一

2010. 11. 18-

2016. 3. 13-

## 【前提】

### ◎戯曲世界の設定

現代日本。

と、もう一つの並行世界。

### ◎想定上の設定

椅子。

柱。

散らかった衣服たち。

### ◎表記上のしるし

- ☆ — 同じ数字の☆印を、同時に用いる。
- ★ — 前の台詞の語尾に置かれて用いられる。「食う意味」。
- ／ — 台詞の調子・方向性を切り替える。あるいは後続の台詞で断ち切りを示す。
- ▲ — 文中には使わなからず用いられる。
- ▽ — 言いながら登場人物の。
- …… — 時間的な「間」、または意味的な断絶を示す。
- ・ — 間を取らなからず読む。

本書の「間」と「拍」は、「一拍」の方が短く。

(1)の(1)な 括弧内の文字は発音とわれない。

「(1)の(1)な」傍注付きの台詞は強調の意味。強調して発音するとは限らない。

## 【登場人物／配役】

毬井 ……死んでしまった男。

水野子サト ……毬井の元・恋人。

水野ハルカ ……その姉。会社員。

母 ……二人の母。

生方 ……水野ハルカの同僚。

武田 ……毬井の学生時代からの友人。

白井 ……武田の後輩。ダーツが大好き。

みい ……武田の恋人。結婚願望が強い。

村瀬 ……毬井死亡時の毬井の恋人。

たつくん ……冥界と現世をうろつく謎の少年。

一平 ……恋人を看病する男。

看病される女 ……看病される女。

吉久（友人1） ……学生時代の毬井・武田の友人。

五戸（友人2） ……学生時代の毬井・武田の友人。

佐川（友人3） ……学生時代の毬井・武田の友人。

ススキ ……

たつくん父 ……

たつくん母 ……

# 【0】 たちあがれ

## 【始動】

### ◎【始動】 開演前

開場。劇場内は無音。

やがて一人の俳優がラジカセをもって登場。

ラジカセを地面に置き、ボタンを押す。と、音楽が流れ始める。

#### ▼音響：曲」

俳優が徐々に舞台上に現れてきて、準備体操を始める。

俳優同士が会話を交わしたりもする。

俳優たちはまだ役柄としてではなく、単に一人の人間として存在している。

劇場空間に漲る緊張感はゆっく〜り高まってくる。

#### ▼音響：曲」

やがて最初のダンス曲が始まる。

準備運動をしていた役者たちが徐々にクラッピングをはじめ、やがてそれはダンスへと発展していく。ラジカセから流れていた音楽がスピーカーからも流れ出し、大音量になる。緊張した空気のある4  
頂点において、劇が始まる。踊っていた俳優たちが全員倒れる。

#### ▼音響：Cutout。俳優たちの場」皆 倒れる。

照明変化。



▼音響：曲jin

倒れている俳優たちがゆっくり立ち上がり動き始める。

一平 まずそのお話っていつのはや、——あの男が死んじゃった、そこから始まるんだけどね、その話は「毬井くん」で奴なんだけじゃや、

女 マリィくん？

一平 その、毬井くんの友達とか、彼女をたじかがいしまよもタダいねるんだ。「毬井くんが死んだなんて嘘だ、ゼッタイ認めないー」っていつい。そういついお話。

女 マリィくんは何(笑)？ 苗字なの？

一平 そうそう。えーとね、毬じきの毬に井戸の井やね。

女 (笑)。なんか女の子の名前みたい。

▼音響：曲jin

俳優たち、再び一斉に倒れる。ただ、全員ではない。男が一人だけ立ったまま残っている。

# 【1】あの人死んでない

## 【希望的】

### ◎【希望的】 毬井の手記・1 『超電子バイオマン』

一人の男（毬井）がいる。

毬井はテープレコーダーを持っていて、以下の台詞はそれに向けて話す。

毬井　うしろしも、死に方について考えてきました。自分は一体、どんな風にして死んでくんだらうかって、そんな事はわかりませんでした。最初のきっかけは幼稚園のころに見た戦隊ものの、『超電子バイオマン』でした。当時『バイオマン』が一番カッコイイ無敵のスーパーヒーローだったんですが、ある時メンバーの一人、イエロー・フォーが殺されてしまったんです。イエロー・フォーはかわいい女のマネ、カメリのフレッシュユメだとなんか分からなくなると武器も必死になって戦うんですが、「イヤ〜っ」とか「きゃ〜っ」とか散々いじめられたあげく、結局、悪の手先にようになってはち殺されたままなんです。——自分は悔しくて悲しくて、そして殺された超電子ヒーローがやがていつの間にかついで、ヒロインヒロイン、ムチャクチャに興奮したんです。しばらくすると「初代のイエローが登場し、初代イエローは死んだままになりました。ハハハ。「死んだら死んだままになる」といつ、こんな当たり前のことが当時の自分には衝撃的で、それ以来、「自分は一体、どんな風にして死んでくんだらうかって〜」ってこのように、心の中を大きな位置を占めるようになってきました。

倒れていた俳優がいきなり立ち上がる。

### ▼音響：Eの車の通過音、のち、門の雑音。

毬井　死ぬことになったその日、自分は池袋にきていました。そっ、この門です。

俳優たちが一斉に走り去って、毬井がそれを見送る。

毬井、改めて正面を向き、

毬井　今からするのはそのあたりから、自分が死んだあたりのお話です。

### ▽音響：out

### ◎【希望的】 水野家・1

場面は水野家、チサトの部屋となる。





生方 え？

チサト 肝心なことなんか何一話しませんから。

生方 それはどいつ？

チサト だってあなたにはその「価値」がわからないですから。

生方 価値？

チサト ええ。誰だって自分の大切な宝物をあげ渡さなくちゃいけないって時には、せめて相手にその宝物がどんな価値を持っているのか、とかそれくらいわかってほしいじゃないですか？——いや、別に生方さんには恨みとか全然ないですけど、だげど自分、ていつか、これはほぼ絶対といって間違いないと思うんですけど、生方さんは全然、あたしみたいな生き方をしてきた人間とは、生き方がちよつと、くはらななとも違いますがちよつと違って、理解できないと思うんですよ。

生方 でも、君だってまだ僕のことをよく知らないわけじゃ？

チサト そりゃそいんですけど、でも、絶対わかんないですって。なんか、わかってくれそうなオーラ無いんですけど、まったひ。

生方 もう少し様子見てから判断するってわけにはいかないの？

チサト いかないです。

生方 どういつ？

チサト どういつともー。だからもー話すじよはじよーせんっ！現場からは以上ですっ！

ハルカ あんたふざけてないで、もうちよつとちゃんと言いなよ。

チサト お姉ちゃんこそふざけてないでよ、人に断りもなへ。こんなよへわかんない人連れてきたり、勝手に人のパソコンも見るとや、

ハルカ だからそれは悪かったって言っているじゃない。

チサト その態度は？

ハルカ いめんね。

チサト 別に謝らなくていい。

ハルカ、少し移動して。

ハルカ あんたも良かったよね、ホントだね。

チサト は？ 何が？

ハルカ あんたがちよつと人になったおかげでみんなあんなこと構ってくれるようになったわけじゃない？ 良かったね、ホント。

チサト え？ だったら放っておいてくれなはいいじゃない？ 構ってくれなくて結構なんですけど別に？

生方 冷静に話しましょう、水野さん。

ハルカ ★あなたの言うことは全然分りやすい話じゃないんだよね？ もう死んじやった人のことを「生きている生きている」といって、そんな普通にわかってもらえないわけじゃないよ？

チサト も、いいからむっつかいてよー。わかんなくていいよ。何言ってるの、全然意味わかんないよ、

ハルカ ★わかりたいと思っとなぎや聞かなごうよー

一拍。

ハルカ あんたの言っていることをわかんないの。だから、そのためにはあんたにもわからせる気かなぎや無理だよってごうなの。——ちゃんとわかるうじやするから、ちゃんと教えてよ。

チサト 元氣ハシッパシだね。

一拍。

チサト そうやってたまには大きい声出すと健康にいーんじゃない？ 怒鳴られる方はたまったもんじゃなごうよ。

ハルカ ★別にあたしだって、こんな風にしゃべるのもいいよ。みんなはみんなかたごうだよ。

チサト ★だったら黙ってねば？。しかももないのに勝手にしゃべっちゃうんだ？。おもごうい。

間。

生方 それで……。ごうして毬井さんという人が生きてると思うのが、チサトさんの考えを聞かせてもらえませんか？。

チサト、ごうの沈黙の後、ノートパソコン、あるいは携帯端末を生方に渡す。

チサト はい。

生方 いねはー。

チサト ★いいから読めよ。

生方 毬井さんがやっていたblogですよ。

チサト なんか毬井さんと会えなくなっただけで、ごう経ってそのスペース見てみたんだけど、そのごう普通の更新ねごう、「ネー」ごう。

生方 はごう。

チサト そのからはホント毎日ごう見るごうになったんだけど、なんか結構長い文章とかもあったごう。

生方 誰が書いたのよごう。

チサト そりゃ毬井ごうよ。

生方 ああ、ごう。

一拍。

チサト 「あごう、ごう」

生方 じゃじゃじゃ——。

チサト じゃじゃじゃ別だ。そう思いたい人には思わせとけばいいし。ただ更新されてんのは事実だから。ホフ、一番新しい記事の田村、一昨日とかになつてたでしょ？ じゃうちゅう更新されてたよ。

生方 なーと、ちゅう待つておさう、あの、チサトをどうだ、

チサト わかった？

生方 じゃ、じゃあじゃ更新されたみたけどあの、記事が新しい——。

チサト ★CINNO。

▼音響・曲fade in。

チサト、生方が見ているパソコンを素早く取り返し、「記事を読みはじめろ。」

◎【登場人物】 球井の手記・2 『池袋から池袋まで』

生方 自分が死ぬことになったその日、自分は池袋に来てしまつた。彼女が「パール」で買った物を買いたいところから、そこの位置をロケット池袋まで戻つたところだ。

舞台上、別の場所に球井1と村瀬。

球井1 そんなじゃ、あそこのマックにでもいるから。終わったら電話ちょうだいよ。

村瀬 じゃ一時間くらいお戻りしてねえかな。

球井1 めいひひひひひ。

村瀬 こめね待たせちゃうわ。

球井1 じゃーじゃー

村瀬 じゃあじゃまだ。

球井1 はー。

一人、軽く手を振って別れる。

雑踏。歩き出す人々。

生方 当時付き合っていた彼女は買物が好きでした。もしそれなりに付くとしても長かったんで、自分がああいうお店を好きだっついてもちゃんとかわかってはねてたんです。

球井2が登場。球井2は武田役の俳優が演じてる。

行き交う人々、道路を眺める球井。

球井2 道路の向かい側を眺めながら、自分はまた死の方について考えていました。昨日観たサスペンスドラマに出てきた死の方が「いかに」って感じでもまらなかつたんで、もうちょっとポップな死に方はないもんかな、ってイメージをふくらませていたんです。たとえば、んー、たとえば、



▽音響：直前の台詞最中も曲out。

▼音響：…いったん無音状態になつてから、SE・雑踏音。

村瀬、登場。花束を手にかけている。

村瀬 「じめんね遅くなつて。何回か電話したんだけどや——。

球井1 おう、うーうーも別じ。や、それよのや、

村瀬 一時間戻れるつうつたのにな。なのにあたう、一時間以上買ひ物ついで。——最悪だよホン  
ト。じめんね。

球井1 ういよ別に怒つてないし。それより聞いごよ、なんかもうだんぢびけいしちゃったけどせつき  
俺のすいじう目の前も事故があつてや、何？、どうしたの？

村瀬 「じめんね。——本当にじめんね。

村瀬、泣いしうん。

▼音響：曲in

球井1 おーい？、ちよつじ。ねえ、聞いごますかー？、あね？、おーちよつじ。

球井、村瀬に呼びかけるが聞こえていない様子。

やがて村瀬のそばに、女の友人が近づいてきて、そつと彼女に触れる。

村瀬、手にしていた花束を球井の足元に置き、友人と共に去る。

球井2 気がひいじ自分ほ、ひとりのりになつてしまつた。あんなに大勢いた池袋の人たちはみな  
どうかへいごつまつたとならや。

ガードレールに座つてる球井。

球井、何も出来ずじ然然じつじるじ、なほじもじも(たつくん)がやつていん。

たつくん どうぢやな、ショックだるじけいじもじも。ホラ、妻チヨ「あねぜい」。

球井1 じや、あめ——。

たつくん わかるぜえ気持ちは。わかるよ。

球井1 えーと、あめ、誰？

たつくん ん？、俺？、たつくんだよ。

球井1 や、「たつくん」知らないんぢすやじ。

たつくん ま、ちよつじどうじつじんだけや、どうぢやなじね、——死んだんだぜ。

球井1 死んだんだぜじつじ、——え、どう？

たつくん うい、うい、うい(笑)。「オイオーイ(小さく笑ひ込む)」。どうぢやなそね「時間」のじつじ  
うつてんだる？、そねがなそねも動瀧じつじまんだ、どうかどう？ 「時間」じつじのはせいのりるじ流

わたるもんだろ？」「いちゃんはもう死んでっから」「時間」とか関係ねんだよ。ホラ、麦子ヨ」あゝ  
ぜっ。

毬井 1 いや、食べなごす、麦子ヨ」。それよりの、

たつくん ★一応いっついで、いっちゃん。

毬井 1 なんですか？

たつくん 逃げられないぜえ。や、わかるけどな。逃げたいよなって。うん。そのやたつくんだったって  
逃げたい。いっちゃんだったって逃げたい。やっは俺たちや気が合うっ。

毬井 1 はいっ？

たつくん たつくんもいっつかいっつかから逃げられないかっと思ってっつらっつらやっつみてるんだけや、  
結局この場面からいられない。何度もっつても同じシーンの繰返しなんだ。

毬井 1 あ、何をいっつてるのかまったくわからないとですけっ——。

たつくん まあ、まあ、最初はそんなもんだったよ俺も。いっあえずホーム、これ持っつてよ。いっち  
やんのだろっ？

とっつて、たつくん、先ほど村瀬が置いていった花束を渡す。

毬井、後ずれる。

たつくん ほら、彼女さんがせっかく、あ——。

毬井、花束を持ったまま、走って逃げる。たつくんはける。

#### ▼音響：曲のつかえ。

以下、群衆を使った演出。

録音された音声テープ、のようなセリフが波になって聞こえてくる。

時報や、株価の読み上げ、競馬中継、津波注意報、天気予報、などなど。

毬井 2 なんだかよくわかりませんでした。よくはわかりませんでしたけど、逃げました。とりあえ  
ず逃げて、とりあえず家に帰って考えようっつて、そう思って駅に向かったんです。当時自分は下北沢  
に住んでいましたから、とりあえず新宿に行こうっつて思って山手線のホームに向かったんです。が、そ  
こにも、誰ひとり人がいませんでした。それでも山手線は当たり前のように走っています。乗客の誰  
もいない新宿・品川方面の列車が六番ホームに滑りこみ、僕だけを乗せるとドアを閉めました。一  
しゅっくり走りだした山手線の車内で僕は、なんだかとても落ち着かなくなって、ずっと窓際に立つ  
て新宿駅に着くの待ちました。——新宿になら誰か人がいるかもしれない。新宿になら、他人のこ  
となんて一切関係ないようにっつていっく「動く歩道」みたいなあの日常が、今も変わらずっつていっ  
くれるかもしれない。——そうっつて新宿を待ちました。

毬井 1 けれど列車は、いっつしまっつたっつても新宿には着きません。池袋の次は池袋。その次もまた池袋。  
その次もやはりまた、池袋です。世界にはもう池袋と僕しか残っていないのかもしれない。いや、  
とっつより、僕が、僕と池袋の方が、世界から跡形もな、何事もなかったかのように消えてしまっ  
たのかもいけません。いや、そんなはずはありません。けれど列車は、三つ目の池袋を過ぎたあたり

から、駅に近づいても速度を落とすことはなく、むしろ徐々にスピードをあげて、山手線、新宿・品川方面行列車は今や信じられないほどの猛スピードになって、次々に池袋駅を通過してゆきます。無限に数珠つなぎになった池袋駅を、次々、次々……。僕はよるめくフラフラの足取りで、なんとかシルバーシートに腰をおろして、今、目の前で起きこいてるじじいさんがなんなのか、それを確かめる方法について考えました。

球井<sub>2</sub> そっしてそれを確かめる方法が自分にはもう、何ひとつ残ってない。

球井<sub>1</sub> じじいじじいが、やがてはつきりわかったらよ。

二人 そうしておなごはひい。

球井<sub>1</sub> 僕は死にました。

群衆の動きが止まる。

球井<sub>1</sub> それが、生まれてはじめて死んだ時の思いがよ。

シーンが唐突に終わる。

▼音響：球井のセリフ後半はマイクで集音。同時に楽曲。背景的な音源として、録音テープ風の話し声が帰ってくる(俳優)。

## ◎【希望的】 水野家・2

場面、水野家に戻る。

チサト ハイ、もしおしまい。やめよう口は。なんか今日の記事すっごく入んだもんなんか。——たまたあんの、じじいじじいさんなとき。「僕は死にました」って、じゃあ、それ書いてんの誰だよ、みたいなさ。なんかすっごく入んんだよね。あーあ。

少し離れた場所から生方が声をかける。

生方 チサトさん、これはあの、全然もじもじの話なんですよ。

チサト なに？

生方 もしあの、Blogを書いている人と連絡が取れて、——ってことになったら、その人に会いたくないですか？

チサト、無言。少し動いて生方との距離を確認しなおすようにじじい。

チサト なに勝手にクワダ突っ込みしててるわけ？

生方 いや、あくまでも例えばってこと話なんですけど。

チサト 最初にいいましたけど、あたし別に理解してもらおうなんて思ってませんから。



いってレベルなんだもん。ずっと読んでたらなんか、毬井くん本人が書いてんじゃないかって気がしてきちゃって、それ以外ないんじゃないかって思えてきちゃって——。

◎【希望的】 水野家・3

と、こいで水野家の母が部屋に入っている。

生方を接待するためのお茶菓子的なものを持っている。

母 ガチャリ、と。ハイ失礼いたしますっ。もーね、よういんあさくんだせいましたこんな小汚いマイ・ハウスに。

生方 あ、や、お気づかいなへ、

母 ホント狭くて、ねえ。うさぎ小屋みたいでしょ？ あ、ちょうどあの引越した時につさぎ年だったもんだからそれにちなんでごちまりしたお家にしたわけでは、ありませんっ！ アハハハ。

生方 あ、なんか、すみません。

母 あ、申し遅れましたが私あの、二人の姪の「キちゃん」です。

生方 あ、そうですか、どうもオ。

母 ——いいですよ突っ込んで、おそれない。

生方 ちよつと文化がよへわからなへい、

ハルカ お母さん（たしなめるように）

母 ハイ正解！ そう、お母さんです。姪でもなへ姉でもなへ叔母でもなへ、ハ、ハなんです。

ハルカ わかつてるお母さんの、

母 ちよつとちよつと見事に戸惑ってんじゃないのお母さん。ええ？ ちゃんとリードしてあげて時代をリードする娘たち。You You You。あ？ 考えてみれば「お母さん」に対して「お母さん」って呼ぶのも失礼ね、ウカツウカツ。あの、大変失礼なんです名前を名乗ったらどうだっ。

生方 え、え、え？

ハルカ 生方さんへ、職場の友達

生方 お邪魔しています。

母 あー、ウブカタさん、こそわづういう字をお書きになるのかしら？ 漢字、漢字。

生方 あ、えーとですな、

母 もしかして産毛のウブに、産毛のゲ？ ウブゲにしかなくてねー！ もーねー。

生方 ——です。

母 （姉妹の目線に気づき）あら、また怒られるわね。こんな怖い顔して、見て、理性を失う寸前のチフワみだいな顔して、うーわ、こっちは遣伝子組み換え食物によって巨大化してしまったかわつすが、（瞬時に姉妹を見比べる）——や、擽猛だ。生き残るのはどっちだめ？ んー。ファイター！ てあら？ 生方さんちよつと「ミミシ」って書いてるわよって肩毛だスィスィー！ あーあ。お腹空いちちゃったと（取り出したジャムパンを食へる）。

ハルカ ムチャクチャじゃな。

母 あ、食へます（生方に）？

生方 いえ、——ああ、一気に疲れましたね。

ハルカ すみませんホント。ホント恥ずかしいもう。

チサト カッコつけたってしょうがないじゃん。

ハルカ そついう次元超えてんでしょ。

母 ちょっと何？ 今日カッコつける日やういっつ日？ 行ってよモー。だったらこんなもの菓子パンなんか、ああ、もうっ(パンを床に叩きつける)。

ハルカ お母さん！

母 カッコつける日だったら何？ 「あ、お飲み物をどうぞー」かなんか言って挨拶がわりのジャック

ク・ダニエル・ツーフィンガー。「実家は実家でも、ちょいフル紳士の隠れ家的な実家です」ってそついう演出したのこー。

チサト 要らない要らない。

ハルカ ホントいいからもう、どっかいって。

母 おおっと・ナイス・コンビネーション・シスターズの登場か？ そんなじゃ、ゴージャス・プロポーションのマザーは退場か？

ハルカ 退場だよ。

母 そんなじゃごめっつー。土方さん。

生方 生方です。

母 はげしめい。

ハルカ えーと、なに話してたんでしたっけー、

母 ★尖閣問題についてじゃなかったかしら？

ハルカ ★だからいーももう出ていなくなっつー！

母 いいじゃないー一緒にいっつー！ (生方に) ねえっ！

生方 あ、はい。僕は別じ。

ハルカ もオー。

チサト、コートを着て、外へ出て行っつーいっつー様子。

母 なにあんだどっか行くの？

チサト その人帰るまで外出してん。

母 やめときなさいよ、屋外で待機ってそんな警備員じゃない警備員じゃない警備員じゃないんだからあんな。

チサト 外っていったって別に、——家の外だけびびっか部屋の中だよ。

母 なぞなぞ？ 「家の外だけど部屋の中なモノなんだ」って、んー、電話ボックス！

チサト ガストだよ。

母 よしきた。ガストだったらポイントカード持って行きな。(財布からカードを取り出して)

チサト いーよそなたなの。

母 いーからお母さんのだからもっしょなっし、ね。いーからいーから。貯めとめて貯めとめて。  
チサト え、貯めとめるのっ。

母 そうだよ。集めてんだから母さん。ね？

チサト わかったよ。

母 じゃ行つてらっしゃい、はい、はい。

チサト、退場。

◎【希望的】 水野家・4

ハルカ すみませんもう、家族総出で失礼を——。

生方 いや、びっぴりしました。あんなにバーって話をわると思ってたんですけど、

ハルカ じゃあね、

母 菌に衣着せないからねあれは、水野家のジャック・ナイフって呼ばれてっから。別名、おもち。

ハルカ 別名違ひますねおっしょ。

母 にしても汚いわねホントこの部屋。(生方に)や、もともとはね。(ハルカを指し)この子なん

かよりよっぽどチサトのがキレイ好きだったんだけど、もーね近頃はダメね。

生方 あー、やっぱり気持ち的な問題と一緒か？

ハルカ ま、ホラ、結局、毬井さんごなくなつてから仕事も辞めちゃったわけだしさ、いろいろ整理し

かないっていつのはあんじゃないかな？

生方 お仕事は何をされたんでしたっけ？

母 レストランよだから。

ハルカ 結構、がんばってたんだよね？

母 そうよ、ちゃんご出世してね。店長より偉い、なんか、エリアチャレンジャーになったとかつて

言っし、

生方 マネージャー。

ハルカ ほっとんど休みなへてさあ。

生方 あー、大変だっついていいますもんね、飲食関係は。

母 で、仕事辞めたあと彼氏くんとも別れちゃったでしょ？ ちょいとしたイケメンだったの。ね

え？

ハルカ んー、そうだったっけ？

母 そうだったでしょ、ちょいイケよ、ちょいイケ。

生方 あの、ちょっと無神経なご質問かなとご心配はして、——、

母 あー、あなたもちょいイケよ。大丈夫よ。

生方 あ、あ、いや、そういひひじやなくて、あの、——毬井さんごこのは回びおっくになりになったんで

すかね？ 病気が事故とか。

ハルカ んーごまあ、それはね、

母 自殺？



生方 うーん、まー、とりあえずブログの運営会社に連絡をとってみたりとか、ま、あとは直接メールしちゃったりとかですかねえー。

ハルカ 探して見つかるようなものなんでしょうか、そのころのこと？

母 ーPアドレスで全部わかったんじゃないかな。

生方 わかんないですけど、とりあえず、やるだけやってみますよ、ダメじゃ。

ハルカ ホントですか？

生方 はい。僕自身ちょっと興味湧いてきたっていうのもあります。

母 いいガッだ。

ハルカ お母さん。

母 お父さん、お兄さん、おじいさん、お姉さん、

ハルカ わ、あ、返ってきた。

生方 楽しい家族じゃ。

母、生方に向かってVサインを送る。

ハルカ すみませんホント。何かあったらあたしも全然、手伝いますよ。

生方 お願いします。

母 まあ、へんな話だもんね。死んだ人間の日記が書き足されていくんですよ。

生方 そっですね。だからまあ、とりあえず調べてみて、また、進捗はちよへちよへハルカにでもお伝えしますよ。

母 あたしにもいいなさだよ。

生方 ああ、はい。

ハルカ ——誰が書いてんだろね。

母 それをーPアドレスで調べんのよ。

▼音響：曲：in。

▲生方 ちょっと信じ過ぎじゃないですかね、ーPアドレス。

▲母 やー、やー、すっこのの。よ。もう全部わかったじゃないかな。

▲生方 そんな万能じゃないですけどね。

場面転換。

【送信】

◎【送信】 子止め女の唄いばち男・2

子サトが何かを書いている。

舞台上の別の場所、オープニングと同じ位置に二平と女が登場する。

女 冷えるね、今日。

一平 そうだね。

女 外、寒かったでしょ？

一平 うん。でも昨日の方が寒かったかな。

女 うっそだー。今日がこの冬一番の寒さだったってんだよ。

一平 ああ、そう？ そうなんだ。ふーん。

女 鈍感だからなあ一平は。

一平 まあ、気にしないからねそんなら——。

女 それでさ、ホントは誰が書いてたわけ、あの日記？

一平 うん？

女 死んだと思ったら生きてたっていつの話、

一平 ああ、あれね。うん。

女 ねえ、誰が書いてるの？

一平 それはまあ、まだはつきりしつかわらないんだけど、

女 え？ だって、あの毬井くん？ ていつのは車に轢かれて死んじゃったんでしょ？

一平 死んじゃったんだけどね、でも一人の毬井くんが死んじゃうと、別の場所から別の毬井くんが

出てるんだ。

女 へー、じゃまだ生きてるんだ？

一平 そうだよ。でね、ある晩おそく、毬井くんに宛てて手紙を書くことになったよ、チサトさん

は。

女 え？ 住所もない人に向かって？

一平 でも、書いたんだよ。

▼音響：曲in

一平 それはね、彼女が毬井くんを会えなくなっしてから初めて書いた、彼に宛てた手紙だったんだ。

チサトが何かを書いている。

音響・携帯端末のクリック音？ ボタンを押す音？

舞台上別の場所に毬井もいて、その姿が照らして出ている。

以下のチサトのセリフはチサト役俳優によつては発話されない。

チサト 本当にお久しぶり。毬井くん、元気になってますか？ て、書くのもヘンな感じがします。

なにせ毬井くんは世間的にはもう、死んでしまっているからです。私のこのメールもちゃんと受け取ってくれる人がいるのか少しだけ心配です。書き終わるまでまだ、この手紙を出したいっていう意識が残っているかどうかわからないよ。でも、このメールの返信は、あ

いらはもっし別のじいじが、きつし私のこの言葉とか、思いとか、そつじい何かを受け止めてくれる人がいると信じて、この言葉を紡ぎたいと思います。単に吐き出したいただけなのかもしれません。そうなるつもりでただのコメントサイ。なだる毬井へんとあたしをめぐめる関係は今、とてもじれていきます。毬井へんと別れをして、そのあと毬井へんに新しい恋人が来て、あたしにも新しい恋人が出来て……。そつじいお話をした時よりも、さらにずっと。あの頃は毬井へんがまだ生きていたし——とつじいからだつてもちろん生きてるんですけど——少なくとも誰もそのことを否定したりなんかしなかった。毬井へん、ロタの日記を更新してつじい「毬井へん」に伝えます。あたしは、毬井へんに会いたいです。会つてつじいなるのかはわかりません。会えなくなる前には知らんぷりをして過つていくけれど、会えないとわかった途端、こんなことを言つのはおかしいのかもしれない。期待でも、会つたつじい。よつじいけむはななとも構いません。気が向いたらつじいにお返事ください。期待せず気長に、のんびり待つてつじいと思つています。多分私は、相対つじいじい。

一拍。

子サト (送信、と)。

空間の変化があつて、

女 ちゃんと届いたのかね？ そのお手紙？

一平 届いたよ、もちろんだ。ただし、毬井へんにじゃない、別の誰かにね。

場面転換

## 【2】 犯人

### 【訃報】

#### ◎【訃報】 プロポーズ

場面、武田の家となる。くしんくす男女三名。

恋人同士の二人（武田とみい）と武田の後輩（白井）。

みい ショウちゃん。ちょっと聞いてんのか？

武田 ん？

白井 ぼーっとしてぎっすよ、武田さん、

武田 おお、フリーワライ。

みい でき、男の人だったら「娘さんを僕にください」でしょ？ それ逆パターンだったらなに？  
うの、聞いていたら、（武田が）おかしいおかしいって言うんだよ。

白井 へー？

武田 だってまだ決まったわけでもないのよ、

みい でも普通カン違いするでしょ？ なんか、「両親と会わせたい」と言われたらさ、あ、そついで  
ういじなのカー、とか思わない？

白井 んー「結婚」ですかあ——。

みい そつだよ。

武田 大げさなんだよ、ふじーに会ってもいじちゃん別「  
でも」両親そつだよ、それかないじよあ、

白井 みいさん、でもですね、俺、武田さんの「両親と俺」三人で焼肉食ったことありますよ、

みい わや！ 意味わかんね。

白井 いや、最初四人で食う話だったんですけど、また武田さんにすっぱかそわちやっし、  
あのあと、「すげえ気に入ってたよお前のじい」

白井 あー、マジですか？ や・なんか年寄り受けいいんだよよね、俺。

武田 なんか実家帰るたびに聞かれたよ、白井へんはじいじのSOS、ソッパ、

白井 え、マジですか。

みい てかその話じいでもごうじよあ、

武田 ええ？

みい じいでもごうじよあ。「両親のじいはごうじいとおごうじい——ショウちゃんをばあじい思いしてわ  
たれ、」

武田 んー、まあ俺もごうじいごうじい年だごうじいあ、

白井 そつすねえ、

武田 だからまあ、あれだな、

白井 ちゃんとか考えないし。

武田 それだな。

みい なんかバカにされてる気がするんですけど。

武田 でもあれだね、結婚の話好きだねみいちゃん。

みい 全然結論が出ないからでしょ？

武田 まあ、そっかそっか。

みい や別に、そんなあたしだってなしてもしなまきゃいけないうってわけじゃないんだわ、しないならしいで全然いいんだけどさ、んー、やめるスレの話？

武田 え、なんでななで？

みい なんか無駄に重いよね、と思って。「うめんななか。

武田 いやいや、別に無駄じゃないでしょ。

みい やでもなんか、なんも「うめん」。

武田 全然わかるしね、言ってる「うめん」は。

みい うんうん。

一拍。

武田 そんじゃ、あれだな。してみっか一回な。

みい え・うそ。ホンキで？

武田 ホンキホンキ。

みい でも、「一回してみっか」って何回もするみたいでないかい？

武田 いや、そんなつもりは無いけど……。だからあれだよ、結論から言ったら結婚はまあ、してもいいかなー、とは思ってるよ俺も。

一拍。

白井 んん？

武田 そんな感じ、かな。はい。

みい え、その言い方で大丈夫？

武田 ん・何が？

みい や、いいんだけどさ、全然あたしは。けどなんか、えーと二応、プロポーズ、でしょこれ？

武田 だね。

みい 伝わんねー。結構あの、大事な一言っていつか、ターニングポイントになるわけでしょ、あたまたちの人生にとっして。

武田 そっ思うよ、俺も。

白井 あのー、俺、帰りましょつか？

武田 いやいや、いいー全然。

白井 そっすか？





武田 ――おい、おい。(音楽に夢中になっている白井に声をかける)

白井 はうはうはう。

武田 ちよつと悪いんだけじゃ、

白井 やこばいっすね、米朝は。

武田 落語？

白井 はい。

武田 いやそれはどうでもいいや、悪いんだけどちよつと帰ってもうってもいいかな？

白井 え、じゃ、今日はターツ行かないんですか？

武田 あんま遊ばざる感じじゃなくなっちゃってます

白井 そうですか――。あれ、するってえと俺は、何待ってた感じだったんですかね？

武田 いめんどめんど。今度、なんかお詫びするよ。

白井 じゃ、まあ、はう――。そんなじゃ、まだ。

武田 うん。いめんどね。

白井、はける。

みい なんのメールだったのさ？

武田 いや、友達がなんか、死んだ。

### ▼音響・曲

武田 お前は知らない奴だけど、あの、毬井ってどう、

みい 仲いい人だったの？

一拍。

武田 まあ、それなりじ。

場面転換。

### ◎【訃報】 参列

場面、毬井の実家のそば、外で溜まっている面々。

武田をはじめ毬井の友人たちがいる。吉久、五戸、佐川。

武田 え、出さないの、葬式？

吉久 おう。なんか今日のこれで終わらしてよ全部。



▲吉久 そんな複雑なことになるかよ。

◎【訃報】 帰宅

場面、再び武田の家。

武田、部屋で疲れている。

部屋の奥からみい登場。手提げ袋の新しいものを持ってくる。

武田 あーあ。

みい なんか作るかい？ 食べる？

武田 んー、ありがとう。いやいや。

みい ねえ、シヨウちゃん、それなに？

武田 ん、あー、なんかいろいろ、遺品をせびったよ。

みい ふーん。なんなの？

武田、手提げ袋の中から一冊のノートを取り出す。

武田 ノートとか、うんうん。

みい ノート？

武田 日記帳みたいな奴とか。あとはまあ、パスワードとか？ そいつの一式。

みい パスワードで、銀行でお金下ろせたりするやつかい？

武田 いやいや、そういうのじゃないんだけど。

みい なんか怪しくない？ おっかねーわ。

武田 どうすっかなあ、じんまもん——。うらあえ、俺の机んじい置んじい。

みい うん。——なんでこんなものくれたのさ、毬井さんは？

武田 なんてってまあ、——約束、だったからかな。

▼高橋・電音電音のSSW。

場面転換。

◎【訃報】 ネット墓地

以下、満員電車の車内での雑談。

武田 なあ。死んだあとネット上のめだわじわっていついかなだ——とか思わねえ？

毬井 え？

武田 いや、フェイスブックとか、ブログとかね。

毬井 あー。

武田 やーツイッターは消して回りたいな、絶対。  
毬井 じゃ、書くなよ。そういっていいよ。

武田 だから最近そういってサービスがあんだろ？ 死んだらそのものの整理してあげるってことか、  
毬井 へー、そつなだ。

武田 や、俺それで思っただけじゃ、  
毬井 うん。

武田 まあ、例えば俺とかがある日突然死んだとして、その、死んだあとどういじらなきゃいけないかがあったら  
——怖くねえ？

毬井 おお。「臨終なう」とか。

武田 いや、それはギリギリいけんじゃん、もつななんかさ、「棺桶の中暗いぜ」。「納骨された切  
ななどは異常」。「三回忌に集まった人が少なすぎる件」とかね、

車面が揺れて乗客が偏る。

毬井 なんなんだよ、それよ。

武田 だからさ、ちょっと俺らも、そついつパストフードなんかをじつかに控えてるぜ、べつちかが  
先に死んだら、しばらく身代わりになって更新してみろ——こののはじつにや。

毬井 なんか生き延びる間に探め事おきそつだな。

武田 いいじゃん、やつてみよつぜ。おもしろそつじゃ。

毬井 いやー、まあ、ぶつちが俺はそついつの、全然興味あるね。

武田 お、おう、あるんだ。——めつちが興味なそつに言つな。

毬井 そつ？「こつなもんだろ、俺。

武田 そんじゃ教えるろよ、あとでパストフード。

毬井 やだよそんな、あぶねえだろ？

武田 なんだ興味あんだろ？ 大丈夫だって誰にも言わないから。

毬井 誰にもついつか、武田が一番信用できなんだよ。

武田 なんだだよ。じゃあ俺が先に教えるからさ、

毬井 ダメダメ。

武田 なんだよノリ悪いな。

一拍。

毬井 遺言で残してよちゃん。

武田 え？

毬井 なんか俺が死んだらじつにこれのパストフードを武田に渡してついでにちゃんを残してよから。  
武田 おー。じゃ俺もそついつか。

毬井 そんなじゃ武田。死んだらお前、ちゃんと更新しろよ？

武田 何年後の話だよ。

毬井 忘れんなよ、約束だぞ？

武田 おう。お前こそな。

乗客たち、いつせいにはけていなくなる。  
照明変化。

◎【音報】 毬井の手記・3 『車内にて』

生方、登場。場所は相変わらず電車の車内でいいのかな。

駆け込み乗車。滑り込みで電車に乗った二人。

生方 間に合いましたね。

ハルカ はい。

生方 あのオ、こないだまた毬井さんのブログ見てたんですけどね。

ハルカ はいはい。

生方 なんか誰かがですね、あのブログの作者に対して、メールみたいなを出したらいいですよ。

お手紙でいつか、あの、成りますよしの犯人に対して——。

ハルカ へー、そうなんですか？

生方 はい。でもそのメールに対してのお返事、みたいなものがブログにまたあがったんですけど、

——ちょっとさ、読みますね？（とじって携帯電話で当該のページを開く）

ハルカ はいはい。

生方 「数日前、死んでいる僕にわざわざメールをくれた人がいました。なにほよもあれお便り嬉しい

かったです。ごちもめろびがよひ」

ハルカ ふんふん、で、何ですか？

生方 はい。「——うはごえ」『おたごひ』とごうお願ごう答えるのは難くないです。だって僕は

もう——死んでるから」

ハルカ あくまでそのスタンスなんだ。

生方 みたいですね。

舞台上、別の場所に武田。

毬井？ ただ、別の誰かを送らせたいの。僕たちが死んでから、いつか送らせたいの？ 僕  
が生き返りたいの？ 僕が生き返りたいの？

▼音響：曲①

毬井1 もしも、生きてる、ていつ活動の中で、自分が声を出したり、歌を歌ったり、電話をかけた  
り、メールをしたり、そういうことのが含まれてるんだとしたら、——死んだから自分  
は生き続けることができるのかも知れない。

毬井2 だって僕が歌った歌は再生ボタンを押せばいつでももう一度歌い始めるだろうし、僕のメー  
ルや、

毬井1 文章や、

毬井2 声や、

毬井1 言葉は、この肉体を離れて何度でも再生される。

毬井2 だからこうして、僕は死んだためにも日記を書き続けることが出来る。案外と僕はすごい、

生方・毬井1 不老不死なのかもしれない。

ハルカ、生方、退場。

▼音響：曲②

### 【3】 武田の生方

◎【武田の生方】 村瀬、来訪、理由。

場面。再び武田の部屋。

武田の白井、白井に伴われて一人の女（村瀬）登場。

武田 あ、どうしてやういふにかひなく、

村瀬 失礼します。

武田 えーと、それで今日はあの、毬井のじやうど何かお話があるってことなんですよね、村瀬さん、どうしては…

村瀬 はい。はい。

武田 白井、悪いんだけど、ちょっとなんか飲み物とか持って来てもらっていい？

白井 あ、えっと、それ、はいいいんですけど…。え、このあとダーツいかない感じですか？

武田 うん、ダーツは、よしあせずおつうじやう、

白井 えー、もしなかなますかマジック。

武田 よしあせず、飲み物持つてきてもらっていいですよ。

白井 え、何飲むかですか？

武田 別になにかもっていいよ。なんかあるなら適当にいいわ、

白井 はい。

白井、じぶんが、お茶をじぶんの部屋の奥へ下がる。

村瀬 今日はあの、突然お邪魔してすみませう。

武田 ★スルスルスル、

村瀬 「連絡差し上げしからうとしようかとも思ったんですけど、断わらねちゃったらかえって余計にひんなるかな、と思っちゃった。

武田 はあ。

村瀬 どうしても武田さんと話してお話したかったです。

武田 それはお話っついでのはあの——？

一拍。

村瀬 どうしてか、武田さんが更新してるといふこと、よく聞い。あんな風に勝手に毬井さんへのアクセスのし

書いたりして、武田さんが更新してるといふこと、よく聞い。

武田 えーと。

村瀬 なんの権利があつたか、って聞かすか？

武田 えっしゅじめななせう、なんかよくわからないうちまは、え？ 村瀬さんは毬井のほうに  
関係の——？

村瀬 まあ、彼女っていつか、お付き合ひしてました。

武田 ああ、そういつ——。

村瀬 で、大学時代のお友達に聞いてまわったんです、あのブログを見て。それでなんか、——遊  
びで？

武田 ああ、それはまあ、そんなはずは——。

村瀬 はい。だから、——そんなはずはね？

一拍。

武田 すみませんあの、勝手なことをやっていますのはいちやう、わかっているつもりなはずは、

村瀬 わかっていたらやらないでほしいですよ。

武田 はい。すみませう。

一拍。

村瀬 まあ、でもそんな怒っているってわけじゃないんですけど。

武田 あ、はい？

村瀬 今、武田さんに認めてもらって半分くらい気が済んだっていつのもあります。あーあ、そう  
だったんですねー、やっほひ。

武田 はい。あー、そうですか？

村瀬 でも武田さん、どうしてあんな細かいこと知ってるんですか？ 隅田川の花火いったときに人  
ごみに酔って途中で帰ってきたア、とか、毬井くんにあたしがプレゼントした時計を無くしち  
ゃったときに全くおんなじのを買って隠してただけで、それがあたしにバレちゃった、とか。

武田 ええ、ええ。

村瀬 たまになんか、これは本人じゃなきゃ絶対知らないだろ、みたいなことが載ってるから。

武田 あー、それはあの、毬井に個人的なノートというか、日記みたいなものも一緒にもらってたん  
で、それで——。あー、なんだったら読みますか村瀬さん？

村瀬 ノートを？

武田 はい。

間。

村瀬 まあ、酔めしませます。

武田 そうですか？

村瀬 なんか、ずっしゅ読たいやらないですか？

一拍。

白井、飲み物を持ってくる。

白井 はい。お待たせしました。

武田 おうおう、ありがとう。どうぞ、カルピス。あ、大丈夫ですか？ カルピス飲める人ですか？

村瀬 はい。飲める人ですけど、なんかへんな言い方ですね。

白井 じゃ僕も。おつかれさまです。

三人、一口飲んでみて、

武田 ちよ、お前がねマッコリじゃねえか、マッコリじゃねえか、マッコリじゃねえかよ。

白井 滑舌いいですね。

武田 滑舌なんかどうだっていいんだよ。すみません、ホント。ななほ酒持っていくんだよ、お前。

白井 だつて今日、どうせダーンバーいけなとてしょ？ 俺、マイダーンバーを買ったのだからさっばか  
それではっかじゃなごですか。

武田 そっただけで、さ、——すみませんなんかお茶とか、

村瀬 あ、いごさあよ。お酒よ。

武田 あ、そっぴすか？

村瀬 どうせならいじゃあ、いごさあ話ごまごまごうか？

白井 そんじゃ一日三回、買出してごませた？

武田 あ、いごさあ、そっぴ——。

と、武田、白井窓際へ。外は雨が降つていごさ。

◆音響・S.F.羽。

村瀬 ——じゃ、マッコリだけよ。

三人、買出しを中止して飲むいごさ。

白井 そんじゃ改めまして、あい、お疲れさまです。

◆音響・S.F.雨の音が強へ。以後、いごさの降り続へ。

時間経過。

◎【武田と生方】 恋愛

村瀬 「あたし嫌われちゃう」って思つのは恋のはじめだよな。

武田 「あたし嫌われちゃう」？

村瀬 だって別に、じじいもいい奴にはめたしの子じじい思わねえもいわけじゃん？ 「なんか変な女」とか「情緒不安定」とか、そう思わせておけばいいわけじゃん。だけど、恋してる時ってなんか言い訳したくなるんだよね。あ、それ違ひよ、あたしそいつのじやないからわかって。だから嫌いにならなごうって。

白井 いや、わかります、それ。嫌われんの怖いっていうのは、もう恋のはじまりです。

武田 でも相手が嫌いっていうなら、諦めるしかないんじゃないの？

村瀬 それは恋愛じゃないんだって、だから。別にあたしだって諦める時は諦めるもん。

白井 そっぴやよ。

武田 あーそっぴ？

村瀬 あのね、私、初めて付き合った時って、その相手っていつのがすげえ、小学校の終わらへんころから中学、高校ってずっと好きだった人で、

武田 えー、小学校？

白井 長いっすね。

村瀬 そうなのさうなの。で、高二でやつとその人と付き合えることになって、だからもう、チヨー長い片思いだったから、うわー、みたいな感じで、現実感ないっていうか、夢みたいで、

武田 なんて人だったんですか？

村瀬 え、なに？

武田 なんていうのその、好きな人、名前は。

村瀬 名前はいいじゃん。じゃあ、名前はね、えっとまあ仮にススキくん。

白井武田 ススキくん。

舞台上、別の場所に「ススキくん」が登場する。

村瀬 そのススキくんがね、ある日突然コラッて来て、好きだよ、とか言われちゃってあたし、

武田 すげえっすよ。

村瀬 でしょ？ 超がんばったからね。「うっすマジでっ」みたいななって。「大丈夫、あたしだよっ」。

みたいな。なんかその人ともう、付き合えばめっちゃめっちゃ長くなったから、高二の文化祭がきっかけで仲良くなったんだけどね、そこからはなんか、結構なとせいにロクな関係してつか、「おめエウぜーから帰れよ」「死なごう」みたいな、そんな感じよ。

武田 はっはっ

村瀬 だからむしろ逆に、恋愛とかのモードに入るのがすっごい大変だと思って。逆にこれは友達モードから出れないパターンハマったか？ とか思って結構悩んだんだけどおめエウぜーなら、ススキ なんかお前といると楽しいよな。

村瀬 とか言われへい、「はあっ、何いってなの」「しっぺ一応、返したんだけど、何せしっぺはめっちゃ好きだから、都立十年めっちゃ好きだから、テンパりまへんってキョウマシっぺい。したらならな、とか、

ススキ え、楽しへねーのお前はっ。

村瀬 とか聞かれて、もう超ヤバいってなつて、顔とかめっちゃもつ、ボンってなつただけで「え、まあ、そりゃ楽しいけどさ——」って返したら、したらなんか向つが「」って笑つて、ススキ 良かった。

村瀬 っ。これ、もうヤバイでしょ？ 死ぬる、ていつか、むしろ死んだ、と思つて。そとで付き合いはじめただけで、付き合つて、めっちゃ怖いなと思つて、

武田 怖い？

村瀬 だってなんか、ススキくと友達っぽくなれた時も、その時でさえ結構、「あ、この関係絶対キープで」みたいな。「死守せよ」「みたいな使命感あったんだけど、付き合いはじめたらある意味、目的地に着いちやってるわけだから、それ以上のポジションとかも結構結婚べらいしか無いわけじゃん？ だからこのポジションも今度は絶対守りぬっていつか、失っちゃダメだって考え方になつていて、したらなんか、どどどんいろんなことが怖くなってきちゃっつて、

武田 ほんほん。

村瀬 それでススキくと付き合つようになつてからはあたいしよっちゅう泣いて。や、別に仲悪くなつたとか、喧嘩したとかそういうのは一切なかったんだけど、ススキくんめっちゃいい人だったし、優しかったから。まあそれに、うちの相性とかそういうのもかなり合つてたから会話自体は全然ナイスなテンポで成立してたんだけど、ふとした瞬間にすげいワアになつちやう時があつて。

白井 ほんほん

村瀬 あーとそうだ、なんか雨の時に、なんだっけな、確か一人で一応、受験勉強とかいって図書館いたんだけど、案の定つか全然集中できなへて、「一人で」「シヨ」「シヨ」しゃべつたら、「あ、うるさいんですけど」とかっつて言われて、「はあっ、」てなつて。ま、でも冷静に考えれば、普通にあたしとどっかいかいけて話じゃん、あの子正論。と思つて、それで図書館出て、したらなんか雨だったのね、外。

武田 雨——。

村瀬 そう。それで二人とも傘もつてなくて、「どっするどっする？」みたいになって、じゃあ今日バスで帰ろっか、ってなつて、あ、なんか駅から学校までが微妙な距離で。ふらふら歩いてけば二十五分くらいで着くんだけど、微妙じゃん？ 二十五分。

白井 雨ですすいね。

村瀬 そう雨だし。で、その日はまあ、そんなわけでバスでも乗るかっつてことになつて、二人でバス亭でバス待つて、——なんかあの、木造の古い汚いバス亭だったんだけどね、なんかトタンっていつの？ 鉄で出来た広告の錆びた看板みたいのとかがあつて、

武田 ホウロウ看板みたいな。

村瀬 そうそうそう。なんかね、そこで二人で仲良しにしてバス待つてただけど、したらなんか、隣にいたススキ君がね、▼こうやってあたしの手を握つてね、自分の膝の上に乗つけて、あつたり前みたいにして乗つけたのね。

▼高響：曲  
uin

村瀬 ほんでどっつやっつてポンポンしてしながらなんか、











一拍。

武田 よくしゃべる人ですね。

生方 すみませぬ。一方的にブレブレと――。

武田 いや、大丈夫です。

生方 はい。

間。

武田 ちょっと考える時間をくださいませぬか、俺も。

生方 はい。もちろぬ。それでいいですかね？

ハルカ あ、はい。あたしはもう。

武田 チサトさん、でしたっけ、妹さん？

ハルカ あ、はい。そうです。

武田 よろしくお伝え下さい。お姉さんも、それでの、なりましての貴方も含めて。大変に迷惑おかけしました。

生方 ★いやいや、そんなことな。

武田、深々と頭を下げる。生方、ハルカ、恐縮する。

ハルカ それでの、プログラムのほうは――。

武田 まあ――。ごしまいも、ずっと続けたらいいと思っただわはじゃあませぬのよ。

ハルカ、生方、一礼して去る。

雨はまだ降り続いている。

▼音響:曲 in

◎【武田と生方】 かつての女と新しい男・3

一平と女のシーン、雨が降っている。

女、家のブランダで傘を指して外を見ている。

一平 風邪ひくやいなやういんね。

女 うん。

一平 どうした？ 眠れないの？

女 なんか昼間に沢山寝ちゃったから。

一平 よくないやいなやういんね。

女 まあ、たまたまは雨をぬぐって眺めるのもいいかなーと思っ。

一平 楽しい？ 雨なんか見て。

一拍。

女 寒い。

一平 フフ、中入るつよ、じゃあ。

一平、歩き出す。女、それを呼び止めるように、

女 わえ、毬井へんはね、

一平 ん？

女 どうして友達に日記なんか預けたんだろつね？

一平 うん。——どうしてだろつね。

女 (笑) 一平が考えたお話なのに。

一平 いやア、自分で考えたからってわかるとは限らないだよ。

女 へー、そいついっつも。

一平 うん。そいついっつも。

一拍。

女 じゃ、あたしの予想を言ってもいい？

一平 うん、どーぞ？

女 毬井くんが日記を預けてたのはわえ、——呪い。

一平 呪い？

女 うん。多分、毬井くんは武田くんのことが大好きだったからさ、死んじゃってからも武田くんの中だけは死んじやいたくない、って思ったのかもね。

一平 うーん。鋭い指摘——かもしれない。

女 でしょ？

一平 そつじやないかもしれなげじ。

女 どうちだよ。

一平 呪われたいって思う人もいるだろうからね。死んでもその人と関われるんなら大歓迎、っつ感じじゃね。

女 気持ちわるーい。

一平 気持ちわるいって言うつなよ (笑)

女 だって、気持ちわるいよ。

一平 納得できない人もいるんだよ。だって、それまでずっと仲良くやってきたのにさ、ある日突然「おれつな」なことで、誰か怒ったらいいか、わからないじゃない？

間。

女 ても、どんな感じするんだろうね？ 自分が死んじゃってきつてね？

一拍。

一平 大丈夫だよ、きつ。

女 ん？

一平 そんなに嫌な感じじゃないはず。——だよ、さよなら。

女 (明るく) うん。だよ、さよなら。一平が死んじゃってきつてもいい。

間。

▲女 じゃ、もう中に入る。

▼音響：曲リ

▲一平 風邪ひくね。

## ◎【武田と生方】カーテンとサイダー

たっくん、父ちゃん、母ちゃんが登場。

父ちゃん なあ、たっくん。産まれた時ってじいじがなだしたか覚えてる？

たっくん お、なんだなんだやぶから棒に。待つからね父ちゃん、なに「産まれたとき」のね、

それ、じいじ？

母ちゃん たっくん、長ぐいす暗くて狭ぐいすだと思ひんだけじゃ、それはじいじがなだしたって聞いて  
じいじ？

たっくん あー。いたかなーそんなこと？

父ちゃん いたんだよ。それは父ちゃんよへ知ってるから間違いない。

たっくん そう言われってそんな気がしねーでもねーけど、あ、そう？

父ちゃん 居たんだよ。そうだよ？

たっくん ま、どっちかと言えば居たかな。あー、たっくん、それだよ。

母ちゃん じゃあそのさ、暗い狭いところから出てきた時ってどんなだった？

たっくん それがもう苦しいのなんの——。母ちゃんはキャンキャン言ってる、苦い苦い音がして

わがしやしたまました。へ。と聞いて、ちよつと「じいじの話をたっくんを聞かしてはなすちやった。

母ちゃん そしたら、たっくん、死んだときってどんなだった？

たっくん は？ なに？ 聞いたの命？







毬井 じゃあ、わかつたよ、愛してるよ。

チサト もうごいよ。

毬井 いぬぬいぬぬ。

チサト もうやめよじんなの。バカみたいでしたち。

チサト、部屋の片隅に行つて寝ぞスる。

毬井、そのチサトに向かひ、

毬井 僕もよくわかんないんだけどね、なんでだか、嘘だと思つたよ。Fは従えないだよ。

チサト うん。

毬井 時にはそいつのつのもあつた方が便利なんだろうな、って分かつてるんだけどさ。どいつでもさうなっちゃう。でもね、やっぱり人ってそいつ、嘘じゃないってよを大切にしようってのが多かれ少なかれあるんじゃないかと思ひんだ。

チサト もう寝よ。

毬井 ——うん。

チサト、寝る。

毬井もチサトのそばで寝ぞスる。

ややあつて、

チサト 毬井くん。

毬井 ん？

チサト ——手。

二人、手をつなぐ。

手をつないだまま毬井、ゆっくらと移動する。

チサト ん、なに？ どいつだの？ あね、ちよつちよつとみに行くの？

毬井 もう朝だから。

チサト 朝だからなに、どっか行くの？ あね？

毬井 うん。まあ、

二人、手を離す。

チサト あー、そっか。毬井くん——（もう死んじやったんだっけ）

一拍。

毬井 それじゃ。

チサト あ——。

毬井が去り、チサトが残る。

▼音響・曲

◎【現実的】 水野家・5

ハルカ、母、登場。

場面・水野家に戻る。朝の風景。

チサト、机の上に乗っ伏しているようなダブけた姿勢。

ハルカ どうしたのチサト、目シヨボシヨボさせてっ。

チサト んー？ そっ？

ハルカ なんかにこんなこと腫わぼったいよねっばらへ。

チサト 寝不足かな。

ハルカ ぶーん？ 忙しいんだ。

チサト てわけでもないんだけど——。ねえ、お姉ちゃん。

ハルカ ん？

チサト こないだね、夢で毬井くんとか会っつて、

ハルカ へー、そっ？

チサト 起きてきたら泣いてっ、あたし。

一拍。

チサト 最後に毬井くんの顔見たときも絶対泣かないって思ってた、実際泣かなかったあたしがさ、夢でちらっと会ったべらら泣いちゃっついで。

ハルカ まあ、いいんじゃないの別に。

チサト 良くないよ全然。だってあたし最後に毬井くん見た時からずっと泣いてなくてさ。この一年で一回も泣いたことなかったもん。だからなんかね、もう、あたしが涙を流さない限り毬井くんはそのままずっと生きているの、って思ってたのに、あっさり泣いちゃっついで。

ハルカ でも、ちょっとずつきりしたんじゃない、それっ？

一拍。

チサト うん。

母、少しだけ離れたところから、

母 まあね、こんなのお母さんがいづいづいじゃないのかもしれないんだけどね  
チサト ★じゃ黙ってし。

母 よしきた。——ちよつとでもダメ？

ハルカ・ハルカ ダメ。ゼッタイ。

母 おおつと、まだしてもナイス・コンドナー・シスターズの登場か？ ゴージャス・プロボ  
ーションのママザーは退場か？

ハルカ じゃあ、なに、お母をと言いつつ？

母 まあ、正直ね、

ハルカ じ。

母 あたしはじつじつでもいづいづい思っているわけにじつじつ問題は。

チサト じつじつでもお母さんね、そんじやね。

チサト、席を立つ。

母 まだじゃべるのよ、まだじゃべるからいい居なをーい。ホフ。

チサト、座る。

母 あね、そのまあ、毬井さんがどっかで生きていて欲しいなっていう思いは、お母さんもお母さん  
るの。お母さんだつてバスが死んだ時には——バスの話はやめましょう。バスは今、関係ない。

ハルカ じ。

母 バカみたいになじい言うのだけだね、あなたが生きてんだ——って言い張っているかぎり、毬井さん  
は生きてると思うの。だつてそれは、実感があるから言えることだからね。——そつとそつと生きて  
るんだなあ、じつじつ実感があるから言えるわけでしょ、そつとじつじつは。それはでも——じつじか  
は言えなくなつちよつとじつじかだからね。それは別に毬井さんだからとかじゃなしに、誰だつて、お母さん  
んだつてそつとじつじつ？ お母さんだつてじつじか死ねただけだから。あんたらが今、お母さんのことを  
生きているなあつて思いついて、実感をもっているわけだけ、でもじつじかはお母さんがお母さんだつて思  
込もつとじつじつ、じつじつ生きているとは言いたくないな——じつじつ風になおわけじゃない？ なかなか、  
じゃあ——じつじつ。じつじかお母さんが来るんだから。——じつじつ、なにをいみりしているのかじつ  
ね、あたしは。

ハルカ なんなのちよつと聞いてんだから、

母 あ、そつ？ 大丈夫？

ハルカ 大丈夫だから、なに？

母 ま、でも、今、全部終わっちゃったんだけどね。言いたくない。

ハルカ あつまつ。

母 うん。

チサト そんじゃ行ってきまーす。

ハルカ 行って来まーす。

ハルカ、チサト、相次いで家を出る。

母 あんたら今晚はどうすんの？ 夕飯、帰ってへん？

ハルカ あたし食べるー。

チサト あたし要らなーい。

場面転換。









マリー　ひる。だひ。うらむ。一平が死なうせしむおれ。

一平　君がいなくてもいるいるないどがておんちうになつてしまつたよ。でもねマリー、僕はそれが、少しか悔しい。

と、舞台上別の場所に毬井がいる。

毬井　僕らは月より高い空の上から、めいへらめいへら落ちるわ。白く雲の間を超超速でいっせいで、パラシュートをおれたスカイダイバーみたいなに落ちるわ。

僕は君はあんまり高くいじから落ちるんぞ、うじか地面に叩きつけらるんぞのロロロをいつから忘れてしまつかもしれない。落下しながら僕たちは、うっかり悲になんか落ちてしまつかもいれない。その時のじよは忘れて、その時のじよはすっから忘れて、今は、君と一緒に遠くから月の輪郭のじよを。今は、君と一緒に。消えかかろ日々に残る番のじよ。

いつか雲の向こうで、僕たちの会えなかった子供たちが、僕たちの通れなかった道を通って、新品の服の新しい革のおおいを身にまよつて、僕たちの流したのと似たような成分の分泌液を、きつと流したりする、その時のじよを。僕はほんやりと夢見たらいい。

### ▼音響・曲

群舞。ダンス終わりで終演。

暗転。

無音の中、明転。一礼。

カーテンコール曲に合わせて俳優たち退場。

音楽がラジカセからのみ流れる状態に。

その電源を毬井が切るや再び暗転。

幕